

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 (ホール審査) 総評 幼児部門

●審査員 A

皆さんとても心をこめて演奏していて感心しました。

うたおうとして身体がゆれすぎたり、おじぎのように動かすと、音を出す指にもその動きが伝わって、かえって浮き沈みが出来たりするので気をつけましょう。

先生に教えられた通りでなく自分から音楽を伝えられるといいですね。

Menuet で前半後半の間に休符があるかのように弾いている人が多かったので、自然に続けましょう。

●審査員 B

皆さんの素晴らしい演奏に心からの賛辞を送ります！この年齢から音楽に親しみ、既に多くのことができるようになっていて素晴らしいです。今後も更に楽しみ、情熱を持ち、益々活躍されることを祈っています！

●審査員 C

全体的にレベルが高い演奏でした、おめでとうございます！

●審査員 D

アジア大会進出おめでとうございます。

皆さんこの日にむけて、たくさんの練習をしてきたことと思います。

ポーランドの曲も、バロックの曲も、拍感がとても大切になってきますので、うたうことだけにならずに、拍を感じてその中で楽しく曲をつくっていけると良いと思います。

これからたくさんの曲にふれて、さらなる成長をしていく事をお祈りしております。

●審査員 E

とても表情豊かに、楽しそうに弾かれていました。

ステージで何を感じてどう表現するか、例えばデュナーミク、音色やニュアンスの変化などを短い曲の中でさらにはっきりと強調して客席に伝えることを心がけてください。

これからさまざまな曲を練習して、また色々な経験を積んで、たくさんのショパンの曲、美しいポーランドの作品を弾けるように頑張ってください。

●審査員 F

今回のコンクールで聴く機会があった若いピアニストたちへの私からのコメントや提案は、正直なところ以前私がこのコンクールで述べたコメントの内容と重なることが沢山あります。

真の芸術家は（敢えてピアニストではなく芸術家と呼びます）、ピアノを弾くのではなく芸術的想像力を駆使し指でストーリーを語ります。音は言葉であり、フレーズは文章であり、曲は全体の物語です。このように音楽を理解し伝えてこそ、聴く人の魂に届き、音楽のあらゆる感情や表現を伝えることが出来るのです。

以前のコンクールでのコメントの内容とも重なりますが、ペダルではなく指を駆使した「レガート・カンタービレ」、和声構造の認識、アーティキュレーション、正確なペダル、ショパンが重視した演奏の自然さ、聴衆の喝采を浴びることだけを目的とする人工的な「演出」のない演奏、メトロノームの過度なプレッシャーに左右されない音楽の時間感覚と柔軟な語り（メトロノームの正確さは、ときに芸術的想像力を乱すことがあります）はショパンを弾く上で常に覚えておきたいことです。

これらについては、指導者の皆様を通して若いピアニストの皆さんに伝わることを願っています。年少の部門の審査に於いては、演奏している子どもだけでなく、指導されている先生方の影響の大きさをその演奏から感じます。指導者の先生を審査させて頂くとも言えるかもしれません。ピアニストや音楽家という職業は決して楽なものではないのです。

才能があるとアピールするためのジェスチャーなのかと思いますが、子どもらしさからはかけ離れ、先生から教え込まれたと思われる少し芝居がかったジェスチャーが散見されたところも気になりました。個人的な意見にはなりますが、このようなあまり芸術的ではないジェスチャーをせずとも、真の才能は保つことが出来ます。これまで長年審査をしてきましたが、しばしばこの現象は見受けられるので指導者の皆様ともぜひ共有したいと考えました。若い演奏家の個性を捻じ曲げてしまうものであり、個性を伸ばすためには決してよい方法とは言えないからです。

そしてピアニストの皆さんに直接お伝えしたいのですが、コンクールに参加する目的は賞ではありません。コンクールは、意識的にレパトリーを増やすことに役立ち、具体的で期限付きの課題を与えてくれ、向上心や集中力へもよい影響をもたらします。コンクールは若い音楽家の成長にとって重要で前向きな要素となるのです。

最後に、少し長くなりすぎたかもしれませんが、コンクールに参加された皆さん、そしてその先生方、親御さん、お子さんや生徒さんが芸術的な達成から多くの喜びを得られることを心から祈っています。ピアノを弾く若者の才能の自然な成長を穏やかに見守ることに喜びを感じましょう。